



北高夢ロード通信

第14号(2024.3)

10周年を終えて一改めて地域の宝の掘り起こしを

会長 波多野宏之

夢ロード10周年の行事は、『「夢ロード」10年のあゆみ』冊子の編集刊行をもって、予定どおり終了いたしました。他の二つの事業、「「夢ロード」の10年と通学路の記憶」展、10周年のつどい（シンポジウム・表彰・音楽）も本誌で報告していますように無事終了しています。これらの円滑な遂行を可能にしたのは、みな様からのご寄付よるところが大きく、本誌前号でのご報告後のご寄付者ご芳名をp.8に記させていただきました。これまでの合計で、100.5口（201,000円）となりました。改めてお礼申し上げます。

事業の趣旨は、上記、三つの事業を通じて、本会のこれまでの活動を（結成前の経緯までさかのぼり）振り返って総括し、今後、どのように継続・発展させていくかを皆さんとともに考えたい、ということに尽きます。2024年度はほぼ従来の体制で進めますが、2025年度以降は、『あゆみ』「10年のまとめ」（p.48）にありますように、活動の中身はもちろんのこと、「北高」を冠し、実行委員会と称している現在の組織名も見直す必要があるのではないかと考えているところです。本誌p.7にも記しておりますが、会員の皆様におかれては、本誌同封の「総会出欠」はがきのメッセージ欄などを利用して、ご意見を賜りたく存じます。

さて、上記の諸行事を通じて感じたことをひとつだけ記したいと思います。それは、とりわけ通学路の写真展示と昭和30年代にあった商店を地図上に図示し、そのいくつかの模型を

作る企画に関してです。実は4～5年前より私的な関心から（自分が居住した）昭和30年代滝部上市の状況を地図上に再現する試みをしてきました。いわゆる住宅地図は30年代にはまだ公開されていないが、宅地の区画に大きな変化はない。記憶をたどり、知人に尋ね、昭和50年代地図の区画に沿った民家、商家、公的機関すべてを書き入れる作業でした。豊北歴史民俗資料館の技術的サポートを得ており、その繋がりで同館が担当した北高地域探究授業（歴史・伝統）の生徒と上市まち歩きもしました。

今回、通学路の商店の地図化はこの延長上にあり、模型作成企画も新たにもちあがって、8月、「通学路の記憶・交歓会」の呼びかけをしました（ただし、住民の参加はなく、会員数名の情報交換で終わりましたが）、その後、p.2にも記した、上市在住で往時のことを大変よく記憶されている方を一再ならず訪問し、大変貴重な情報を得ました。技術的なサポートは引き続き資料館から得るとともに、同館より借用した写真の読み取りなどを通じて担当学芸員と意見交換できたのも大きな収穫でした。

来場者から、写真に写った先祖の家（商店）の正確な情報をいただいたり、不明であった商店の位置や名称が判明することもありました。滝部に続いて阿川でも、との阿川在住者の意見に、資料館員の方からも賛意が示されました。模型を担当した会員は、今後も滝部駅のより正確な模型を目指しており、映画館「滝部座」にしても、資料館にも建物写真や運営の実態のわかる資料も全くないのが実態です。こうした地道な調査活動は、今後、本会として力を入れていく方向性の一つだと改めて思った次第です。

＜ギャラリー夢ロード＞第19回展 「夢ロード」の10年と通学路の記憶

11月7日(火)～12月3日(日)開催。

今回は5周年展示をベースとし、第1部『夢ロード』の10年では、20点の写真を追加、合計でA4版のカラー写真約50点を展示。第2部「通学路の記憶」では、新規に豊北歴史民俗資料館(以下、資料館)や地域の方々から提供された写真約20点を加えて、計約50点A4のモノクロ写真で構成した。会期中にも地域の方の提供で数点が加わった。また、今回のチラシ・ポスターに使用した「滝部駅前～下市～上市全景 昭和30年頃」にほぼ対応させて、ドローンによる「滝部中心部全景」(2019年撮影)を佐々木猛氏のご厚意によりA3版で比較展示し、変化の様相を示すことができた。

今回特に力を入れたのは、昭和30年代、滝部駅～下市～高校の通学路にあった商店を地図上に再現し、そのいくつかの模型を作成することであった。地図作成に当たってお話を伺った上市在住の松岡なるみさんの記憶力や地図上に図示するに際して資料館のご助力に支えられた。滝部駅、笹尾商店、かつての映画館「滝部座」などの模型に関連させたワークショップ「ドールハウスを作ろう!」では紙粘土を上手に扱う子供たちに驚かされた。



音楽とお話の夕べ

- 11月10日(金) 白岡勝典
「黄金期のJazz名演聴き比べ♪」
- 11月17日(金) 恒富英雄
「再現 滝部中学校校歌と応援歌」
- 11月24日(金) 古屋 優
「シベリウス ヴァイオリン協奏曲二短調 作品47」
- 12月 1日(金) 穂枝岳志
「昭和30年代六八コンビとハマクラ歌謡曲」



今回の音楽とお話の夕べは、上

記のようなメニューで開催されました。昭和30年頃の撮影と思われる「駅前～下市～上市全景」の航空写真に触発されて、昭和30年代を中心としたバラエティ豊かな選曲となりました。

恒富さんの「再現 滝部中学校校歌と応援歌」では、滝部中学校の応援歌の発掘と再現の苦労話が切々と語られました。古屋さんのクラシックはいつも楽しみにしているのですが、残念ながら今回は参加することができませんでした。穂枝さんの「六八、ハマクラ」では、水原ひろしの「黒い花びら」をはじめとした昔懐かしい歌謡曲を愉しむことができました。後半紹介された下田逸郎氏については、全く存じ上げませんでした。

日本の高度経済成長期の昭和30年代は、Jazzの黄金期に重なり、ブルーノートレーベルをはじめ、名盤・名演が目白押しです。そして名盤と言われるアルバムは、ジャケットデザインも秀逸です。従って擦り切れるほど聴きまくったレコードは、そのアルバムジャケットを眺めているだけで、演奏が聴こえてきます。同じアルバムでもCDではこうはいきません。これもJazzの魅力です。(白岡)

10周年のつとめ シンポジウム



11月11日(土)滝部公民館(太陽館)を会場に、「アートと市民をつなぐ:まちづくりの実践」をテーマにシンポジウムが開催されました。シンポジストは、北高夢ロード実行委員会会長の波多野宏之、サードプレイス:フォーラム杜屋主宰の市倉栄治氏、古三堂主宰の広瀬耕氏のお三方。

トップバッターは波多野会長で、「本とアートにできること~夢ロードの10年とこれから」と題して、会の発足の経緯と主要な活動である「アートの本棚」「ギャラリー-夢ロード」の運営のこれまで、そしてこれからの展望について熱く語られました。

市倉氏は、『感性』から幸せをつくる。~フォーラム杜屋への招待状~と題して、非営利地域貢献活動としてのフォーラム杜屋プロジェクト(FMP)の創設から現在まで、これも熱く熱く語られました。リフォームしたサードプレイスにオーディオルームを開設し、膨大なコレクションを基に音楽鑑賞会や映画上映会などを定期的に毎週開催するなど、だれもが心豊かな気持ちになれる「幸せな居場所づくり」を目指しています。

最後の登壇者の広瀬氏は、萩市三見において古民家を自らの手でリフォームした憩いの場「古三堂、一棟貸しの宿「要(かなめ)」」を運営。地域おこし協力隊での経験と人脈を生かした、フリーマーケット、展示会、「古三堂カフェ塾」など多彩な活動を展開しています。豊富な経験と若者としての視点から、「人が集まる場所づくり」について実践に基づく貴重な提言をいただきました。(白岡)

佐坂貴之代表「Mono-sax」の演奏を聴いて演奏会では、モーツァルト作曲ディベルタイメントNo.1、マイ・フェイバリット・シングズの他数曲が演奏された。モーツァルトは、作品番号からして10代か20代前半の作曲。クラシックに力を入れている、との代表の言葉通り曲の出だし部分だけでモーツァルトと分かる。会場の聴衆と音楽を楽しみながら真摯かつ躍動感のある演奏——これこそ人に伝わる音楽だ。生演奏で各パートの音が判りやすく興味深く聴くことができた。今後も、多くの人を楽しませて欲しい。(古屋 優)



5名の方に感謝状と記念品を贈呈

10周年を記念し、会の外側から貢献していただいた方々に感謝状と記念のクリスタル賞牌を贈呈しました。()は授賞理由

写真左より藤田至氏(雨傘の提供)、川崎八重子氏(雨傘貸出拠点の提供)、故笹尾信子*氏(<アートの本棚>拠点の提供)、木本久信氏(<ギャラリー-夢ロード>拠点の提供)、内田満*氏(栗野川の動植物に関し地域探究授業で指導)(*は代理出席)



【北高地域探究授業支援 '23】 新しい試みを豊北小学校でも



豊北小学校での干し柿づくり風景

今年度は、自然探究の年間計画を北高側に任せました。その結果、内容が一貫性に欠けた感が否めないという反省から、新しい方向を模索するための実験事業である。

地域との結びつきを積極的に行っている小学校の要請に応じて開催し、好評だった。

北高では、河川・田畑の生物探求など例年通り実施した。特筆すべきは「アオノリの生態観察と育成実験」で、ある程度の成果があったことである。具体的には、ペットボトル

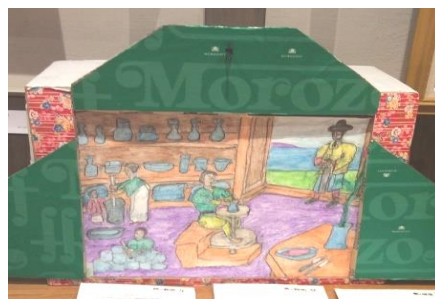


によるアオノリ培養実験で初めて装置内の小石にアオノリの成長を確認したのだ。わずか3cm（上写真）ではあるが、セット後2ヶ月を経過した容器に確かに幼体が育っていたのである。新たな希望が湧いた瞬間だった。

（藤岡）

紙芝居「北浦蒙古襲来絵詞」

10月28日、太陽館まつりで北高夢ロードの活動報告と昨年に続いての北浦へのモンゴル襲来を題材にした紙芝居上演を行った。この絵は、文永の役で、軍船に乗るよう役人が徴募に来た高麗青磁の陶工の家族を描いたもの。蒙古の支配に抵抗して高麗の文化を守ろうとした一家を登場させた。この陶工は軍船の料理掛かりとして、日本襲来参加すると想定。次回は文永の役直前の鎌倉幕府の対応からです。（岡崎）



夏の市民フェスタ

8月20日、しものせき市民活動センター主催の行事（於：菊川ふれあい会館）に参加した。趣旨は、旧4町で活動する市民団体間の交流と市民への広報。従来シーモール下関などでセンター登録団体のパネル展があるが、旧4町に限定した催しは初めて。今後、順次会場を替えて開催したい由。単なるパネル展でなく、各ブースに担当者が張り付いて説明する仕組みで、参加19団体の人的交流としても効果があったと思われる。（波多野）



読書会「カフェ・リーブル」のこと

昨年7月から始まった読書会「カフェ・リーブル」。今年の2月で第4回を迎えました。

リーブルとは、フランス語で自由や無償を意味する「libre」、本を意味する「livres」を掛け合わせた、波多野会長ならではのエスプリの効いた命名。

これまで参加人数は延べ32人、紹介した本は59冊におよびます。絵本や児童書をはじめ文学作品、マンガや写真集、フィクションなどなど。

今の時代、何かにつけて多様性と言いますが、読書の世界では初めからそうだったのだと改めて感じるほど、いつも新しい出会いがあります。

1人1冊持ち寄ることを前提としながらも、1冊に絞り込むのはなかなか難しく、内容紹介にもつい熱が入り、毎回2時間では足りないくらい盛り上がります。

読書とは、ただ本を読むだけではなく、感想や意見をアウトプット・シェアすることで完結するという人もいるほどで、自らが本と対話し、人に語ることで昇華するのでしょうか。

また、読書会とは気づきの場だと考えています。たとえ紹介された本がぜんぜん興味がないジャンルだったとしても、その本や感想を聞き、自分がどう感じるか？また、読んだことのある本が紹介されたとき共感するか否か？

1冊の本が人生を劇的に変えることもあります。

今後、高校生の皆さんや普段本を読まない方にも参加の輪が広がり、この活動がさらに有意義なものになることを願っています。

(溝口 あや)



第4回の様子

クメール語(カンボジア語)の本を設置

10月6日、北九州多言語図書館の拠点の一つとして<アートの本棚>に80余冊が設置されました。2023年春から滝部にはカンボジア人技能実習生の青年2名が居住しており、会員とも交流しています。



読書週間北高図書室展示

10月20日、図書委員の生徒が<アート



の本棚>で選書。10月27日~11月9日の読書週間に北高図書室で展示されました。



＜ギャラリー夢ロード＞第20回展 北高成果展 2024

1月30日(火)～2月11日(日)、3回目の北高成果展を開催した。展示及び撤去作業も(総合文化部を中心とした)生徒が行う方式は従来と同じである。その総合文化部も、全体的に生徒数が減少していることから、目下6人しか在籍しておらず、美術班2名、文芸班2名、新聞班2名の構成という。油絵、水彩画等は従来から展示の中核であるが、今回新たに詩、散文、部活動紹介ポスターが加わった。家庭科授業関連の布作品は多彩であった。体育祭で用いた衣装や障害物の出展は今回初めてであり、体育祭当日の写真も添えるなどの配慮が見られた。

特筆すべきは、31日(水)、生徒14名と教員4名が来場し、**生徒自身が自作について**トークしてくれたこと。かねてより生徒との対話を望んでいた美祢市からの来場者のもとより、会員等との対話もはずんだ。また、すべての作品ではないが、氏名、タイトル等を記した作品＜ラベル＞が掲出されたことも、顧問の先生のご尽力があったとはいえ、生徒自身の自覚の表れとも思いたい。



【音楽とお話の夕べ】

＜ギャラリー夢ロード＞第20回展、の中で2月2日にJAZZ、2月9日にはクラシック音楽、と音楽とそれについてのお話を聴く会が行われました。[北高成果展2024]

周りには北高生それぞれが作り上げた作品が展示されています。

2日はJAZZ 名演聴き比べ♪～ピアノトリオ編Part3～。白岡勝典さんがお話をされました。

①ファンタジア(1983)②カサブランカ(1989)③ラブ・レターズ(2001)④ナイトウイングス(1980)⑤ストーリー・オブ・ア・ジャズピアノ vol.1(2004)⑥シンプル・ムード(1985)⑦ジス・ヒア(1960)⑧ムーヴィン・アンド・グルーヴィン(1960)⑨オータム・イン・ニューヨーク(1995)

こうして並べたレコードの中の一曲一曲が流され、説明して下さった白岡さんにとっては青春を思い出される、かけがいのないもののようなものでした。



若いころの私は、JAZZにおいては踏み込んではいけなかった世界のように感じていたのですが、今こうして聴く機会があり、それぞれのトリオの違いが判らないにしても聴いていたい音楽を感じています。

次の週の9日は古屋優さんによるヨゼフ・ハイドン 弦楽四重奏第78番変ロ長調 作品76の4「日の出」と、題しての会でした。題名と共にとても勇気をもらうことができました。ピアノソナタ第26番 op81「告別」・「美しき青きドナウ」作品314・「ラデッキー行進曲」作品228

終わってみればよく耳にする曲が多くて、次を期待する聴衆の方々と先週の jazz の会を知らなかったことにととても悔いておられた人の声がこれからの会に勇気づけた思いがしました。皆さんがこんなに音楽に興味を持ってられるのかと驚きでもありました。

音楽も人生の出会いだと、この頃思わされます。
(戸田佐和子)

豊北町の土を知る陶芸教室

陶芸家 森野清和

豊北町では、江戸後期から明治・大正・昭和まで焼き物を生産していました。現在でも、この町には白土・赤土・黄土・ピンク土などいろいろな陶土があり、それを使って磁器・陶器（萩焼）なども焼かれています。

豊北生涯学習センターで陶芸教室を二度開きました。一度目の教室では、生徒さん全員の作品を一作品として下関市芸術文化祭美術展に出品したところ見事『入選』しました。

二度目は、掘ってきた土を生徒さん自身が細かく砕き、粘土を作るところから始めました（生徒さんの中には夢ロードの会員も数名参加していました）。自分が作った粘土を使って自由に成形した作品を乾燥・素焼きし、絵付けをして釉薬をかけたらいよいよ本焼きです。今回は生徒さんが何を作るか自由だったので、大小様々で色・形も変化に富んだバラエティ豊かな作品に仕上がりました。仕上がった作品は「ほうほく文化祭展示部門」で披露し、多くの来場者の目を楽しませることができました。

いずれも参加した皆さん大変意欲的で、その熱心な取り組みをととても嬉しく思いました。皆さんのその姿に、豊北町の焼き物文化が脈々と受け継がれていることを実感し、頼もしく思いました。

残念だったのは、豊北町には使える窯がなく、二度とも豊浦町の「黄孫窯」や「豊浦勤労青少年ホーム」の灯油窯を借りて焼いたことです。豊北町に自由に使えるマイコン付小型電気窯があれば、豊北町の陶芸文化がもっともっと発展すると思います。その日が来るのを楽しみにしています。



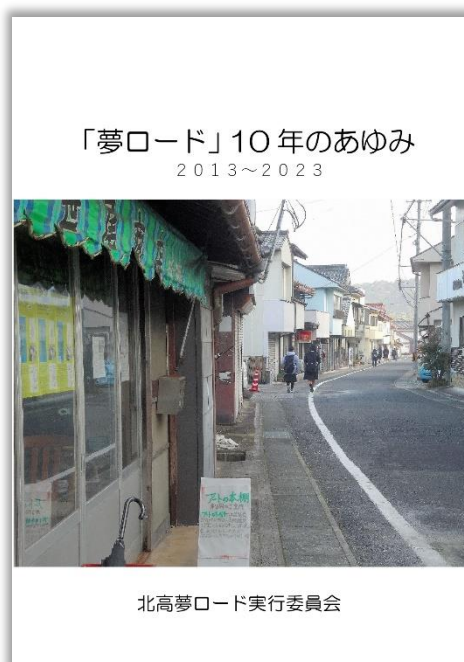
『「夢ロード」10年のあゆみ』*について ご意見を

既に全ての会員（および関係の方々）のお手元に届いていると思いますが、『あゆみ』冊子は、会の結成以前にまでさかのぼり、これまでの組織や活動の歩みを、視覚的にも、データ的にも記録にとどめたものです。10年を経過して、問題点を洗い直し、これから先、真に有意な活動でありうるか、またそのためにはなにをなすべきか、を検討するため広くご意見を伺っておきたい、というわけです。

とりわけ、第2部の末尾に「今後の方向性」として記した事柄、わけても組織のありようについて、2024年度中に煮詰めて、2025年度から然るべき体制で取り組みたいと思っています。

そこで、会員の皆様におかれては、本誌に同封した「総会出欠はがき」の「近況・ご意見」欄にお考えをお書きいただければ幸いです。また、これに限らず、(会員であるか否かを問わず)事務局宛のメール、文書でも随時、お寄せくださいますよう。

*2024年2月20日発行。A4版89ページ。発行部数200部。若干の残部がありますのでご希望の方には、実費(500円+送料310円)でお分けします。



『あゆみ』表紙

2024 年度 総会のご案内

2024 年度総会および総会後の行事を下記の要領で開催いたします。

つきましては、本会報第 14 号同封の出欠はがきを 4 月 22 日（月）必着でご返送願います。

記

日時：2024 年 4 月 27 日（土）

会場：滝部公民館

■総会

14:00～15:00（2F 和室）

■総会后行事

15:00～17:00（講義室）

「下関北高相撲部を励まそう」

下関北高相撲部が強豪校であり、大相撲の関取を輩出した響高校の伝統を引き継ぎ、頑張っていたくためには、地元豊北町の相撲文化の再生が不可欠です。そのために何かができるかを語り合う会を開きます。

- ・下関北高相撲部の活動報告
（校長原本悦美先生 顧問朝岡秀太先生）
- ・豊北町の子ども奉納相撲の記憶と記録
- ・「ちゃんこ鍋」レシピの紹介・配布
- ・落語「大阪相撲関取 玉椿幸太郎」
（岡崎新太郎）
- ・お話し「玉椿旅館と豊浦の相撲文化」
（玉椿旅館 藤井優子氏）
- ・相撲健康体操・子ども大相撲の歌

会員以外の多くの方々のご参加もお待ちしています。

事前申し込み不要

問い合わせ：080-5230-6032（岡崎）



10 周年ご寄付のお礼（続）

10 周年にあたり、みな様からお寄せいただいた寄付金は、本誌掲載のように昨年 11 月の諸行事や『「夢ロード」10 年のあゆみ』の刊行などに有効に活用させていただきました。会報第 13 号（2023.7.20）で報告させていただいた後につきまして、ご芳名を記し感謝申し上げます。（ご芳名五十音順 敬称略）
大中千早、幸田儔朗、城石郁裕、高田浩子、波多野和明、宗清禮吉、豊浦北高校 1956 年卒業『浜木綿』有志

計 7 件 35 口 累計 40 件 100.5 口

北高へふるさと納税で応援を

【ふるさと納税】システムを利用、下関北高の教育活動充実を支援しましょう。詳細は県外在住会員宛今号同封の『山口県ふるさと納税の募集』の《払い込み取扱票》通信欄に下関北高校宛を記入、振込手続後、確定申告又は特例申請で税控除されます。

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a10700/furusato/top.html>

問合せ先：北高夢ロード実行委員会 城石郁裕
E-mail：japolo1329ik@gmail.com

2024 年度会費の納入について

4 月に振替用紙を同封してご案内いたします。

北高夢ロード通信 第 14 号（年 2 回刊）

2024 年 3 月 20 日発行

編集：会報編集委員会（戸田・穂枝・白岡・村上）

発行：北高夢ロード実行委員会

〒759-5511

山口県下関市豊北町滝部 218-5

Tel：083-782-0084

ホームページ：<http://yumeroad.org>

E-mail：kitakoyumeroad@gmail.com